

9 識別問題のジヤパンカップ 「に」の識別

♥「に」ができれば、あなたもG Iホース。馬でもG I馬になれる馬は超天物。人間なら大人物！

《 識別対象 》

「に」ちゃん① けい② かん③ だ④ 季⑤ ぐ⑥ かく⑦ せ⑧

①形容動詞の連用形活用語尾

あながち

いたづら

おぼろげ

②完了の助動詞「ぬ」の連用形

見侍り

暮れにけり。

散りにけむ。

③断定の助動詞「なり」の連用形

竜のしわざ

この川、飛鳥川

あらねば、

④ナ変動詞の連用形活用語尾

死にけり。

往にたり。

⑤副詞の一部

よに

げに

つひに

さらだ

いかに

まこと

⑥格助詞「に」or「にて」の一部

山に籠りたり。

お供に参る。

⑦接続助詞

憎きに斬れ。

寄りて見るに、中光たり。

★ 識別のポイント

※お話しプリントでは①、②は省略して「一番重要な」断定の「に」を取り上げました。

③ > ④ < の助動詞 「の」 (形 ☆接続 〓) (・) (形に付く)。

※断定の「なり」の活用を確認してみよう。

なり
に + あり ↓ なり

断定の「なり」は「に」+「あり」が熟合してできたものと言われている。ということは連用形の「に」の下には原則的に「が」来て訳が「〜」となるのである。

☆下に「 「があつて」に+あり」で、「〜」と訳せる「に」は断定だ！

②これは竜のしわざだこそありけれ。⇨これは、竜のしわざ) (のだ。

③この例のように「に」+「あり」の間に割り込むのは助詞くらいで、「に」と「あり」が遠くに離れることはない。

④この川、飛鳥川にあらねば、(この川は飛鳥川) (ので、)「を補って」

⇨おぼしけるにこそ。(省略されている)こそ)の「結び」である「」

▲ハイレベル

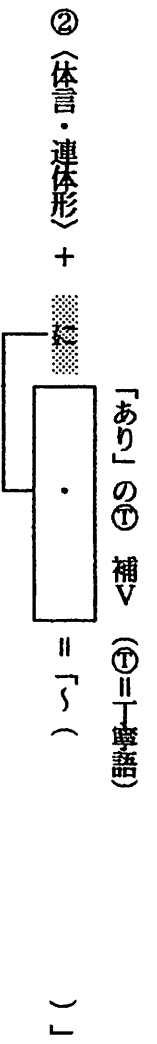
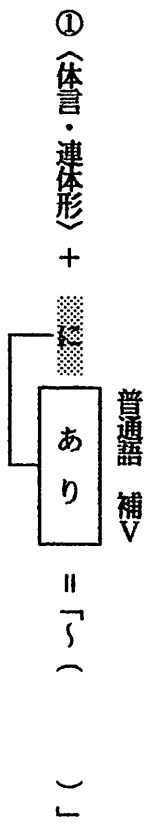
♥この断定の「に」は下に「あり」を伴って、「トだが、この「あり」が丁寧語の」
 になっていて、この場合はレベルが高いので、訳をきちんと確認して識別しよう。

①「この獅子のたてられやう、定めて習ひあること」
 「この獅子のたてられ方には、きつといわれがあること」

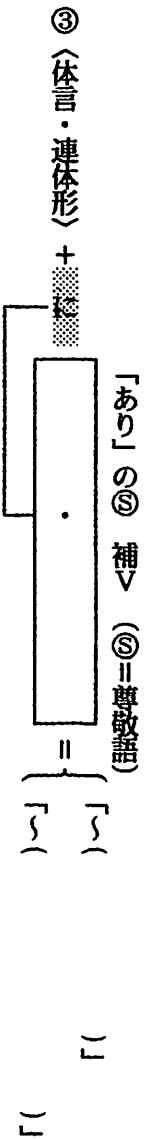
②大入道殿の五郎君、ただいまの入道殿
 「大入道殿（兼家公）の五男君は、現在の入道殿（道長公）」

★断定の「に」の発展ヴァージョン

□「あり」の変身パターン



例「定めて習ひあること」
 例「その事」



例 大入道殿の五郎君、ただいまの入道殿
 「大入道殿（兼家公）の五男君は、現在の入道殿（道長公）でいらつしやいます。」

②「あり」の省略パターン

